

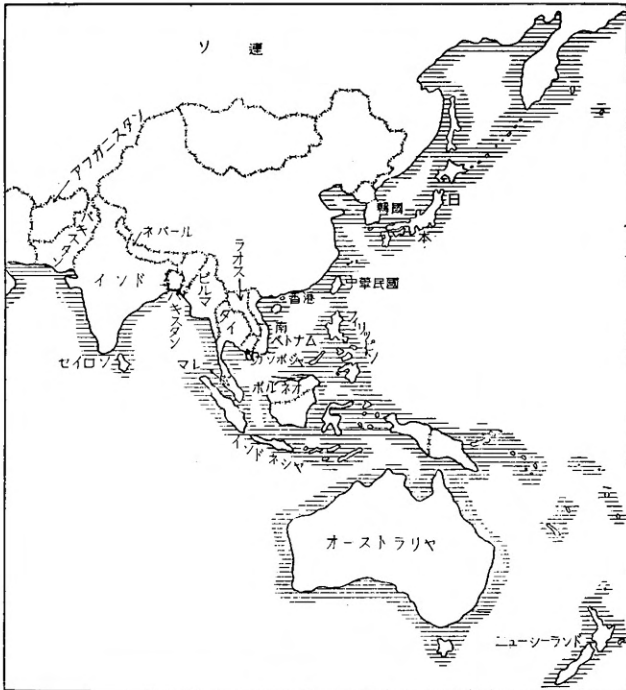
ECAFE 地域各国の 地質調査事業の現況

(1)

ECAFE 事務局の機構と業務内容

国際連合アジア極東経済委員会 (ECAFE) の事務局に、地質調査所の沢田技官が去る1955年7月から12月までの5カ月間勤務していたので、ECAFE事務局の仕事について紹介してみよう。

国際連合には周知のように安全保障、(Security Council) 経済社会 (Economic and Social Council) および信託統治 (Trusteeship Council) の3理事会があり、さらに経済社会理事会の下には14委員会がある。この14委員会中地域的なものとして、ヨーロッパ、アジアの極東、ラテンアメリカの3経済委員会が含まれる。



ECAFE 地域の諸国

ECAFE とはすなわちアジア極東経済委員会 (Economic Commission for Asia and the Far East) の略称であり、ヨーロッパ、ラテンアメリカの両経済委員会はそれぞれ ECE、ECLA と略称される。

ECAFE 事務局は中共が中国本土を統治する前には上海にあつたが、その後タイ国のバンコックに移り現在に至っている。

熱帯の水の都バンコックで、最も広くて美しい道路であるラジャダムネン・アベニュー“それは旧城内の王室関係の寺院ワットプラケオから国会議事堂に至るものである”が、バンコックの主な運河の1つクローンパドンを渡る橋のもとに、サラサンティタム (タイ語で平和の殿堂の意) とよばれる2階建の ECAFE 事務局の建物がある。

この事務局には最近辞意を表明したと伝えられる局長 P.S. ロカナサン博士の下に約 200 名の局員が、アフガニスタン以東から日本に至る間のアジア諸国の経済発展のために、酷暑にもめげず朝7時半から夕方4時まで調査や研究にいそんでいる。

ECAFE はアジア各国の経済発展のためこの地域の経済状況の調査・分析を行い、これに対する適当な対策



バンコック ECAFE 事務局玄関前における日本人局員
(左から玉井氏・沢田技官・安原氏・二村氏)

をたてて各国政府に勧告する機関であつて、中共、北鮮、北ヴェトナム、ブータンを除くアジア諸国〔正式加盟国：アフガニスタン・オーストラリア・ビルマ・カンボジア・セイロン・中国（台湾）・インド・インドネシア・日本・韓国・ラオス・ネパール・パキスタン・フィリピン・タイ・南ベトナム、準加盟国：香港・マライ及び英領ボルネオ〕が加盟しており、域外加盟国としてはイギリス・フランス・オランダ・ニュージーランド・アメリカ・ソ連の6カ国である。

E C A F E 事務局の構成（1955年12月現在）は次の通りである。

1. 局長事務室 Office of the Executive Secretary
局長（インド人）・次長（フランス人）・局長秘書官（インド人）・情報官（イギリス人）及びそれら付の秘書等約10名と次の言語課とからなる。

言語課 Language Section

報告書原稿の校訂・翻訳等に従事する約10名からなり、課員はフランス人が多い。イギリス・フランス両語間の翻訳が多い模様である。

2. 治水・水資源開発局 Bureau of Flood Control & Water Resources Development
Dr. Shen-Yi という国民政府時代に南京市長をつとめた技術者を長とし、約10名の局員を有する。

3. 産業貿易開発部 Industry & Trade Development Division
U Nyun というビルマ人の経済専門家を長とし約20名の部員を有する。貿易促進課、中小企業課、鉄鋼課、鉱物資源開発課、電力課等からなり、

鉱物資源開発課長 李慶遠博士
（向こう側壁ぎわの机は沢田技官の作業していた席）



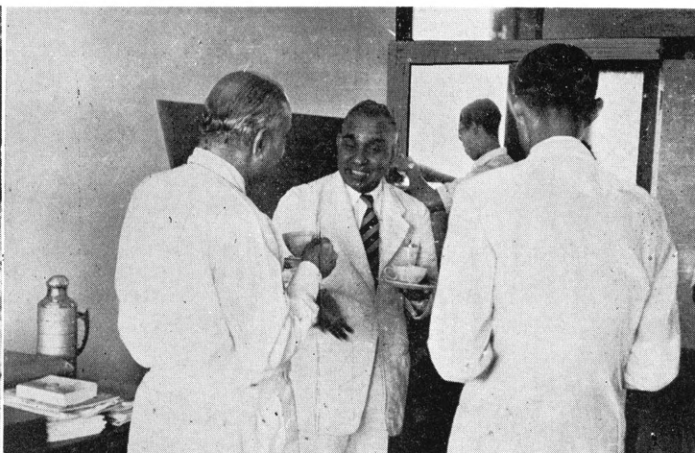
現在日本人局員として通産省重工業課から派遣された安原氏が鉄鋼課に勤務中である。

4. 調査計画部 Research & Planning Division
J. H. G. Pierson というアメリカ人を長として部員約25名を有し、E C A F E 地域の経済事情一般を調査・分析し、対策を立案する。
この部の編さんにかかる年報 Economic Survey of Asia and the Far East は、ECAFE 事務局出版物中、最も重要なものの一つとして評価されている。この部には現在輸出入銀行から派遣された二村氏が勤務中である。
5. 運輸部 Transport Division
M. S. Ahmad というパキスタン人を長とし、部員は約10名。域内の交通・運輸に関する調査・分析・対策の立案に従事する。
6. 農業班 Agricultural Unit
10名足らずの班員からなり、農林省から派遣された玉井氏の他、日系米人でFAO（国連食糧農業機構）から派遣された大倉夫人が勤務している。
7. 管理部 Division of Administration
Dr. C. Y. Wu という中国人を長とし、会計課、人事課、図書室、記録及びタイピングプール、文書課、庶務課からなり、約80名の部員を有する。

その他

- 製図班 Drawing Unit（班員 約5名）
電信班 Field Service（班員 2名）
地域社会福祉事務所 Regional Social Welfare Office（所員 数名）

臨時契約の部員ムラカ氏の送別茶話会
（左からムラカ氏、ロカナサン局長・ウニユン産業貿易開発部長）





ラジャダムノン アベニュー (バンコック)

筆者の所属は産業貿易開発部の鉱物資源開発課であつて、李課長の外、タイ人地質家1名、秘書1名、それに臨時職員として筆者が作業に従事した。(ECAFE 事務局職員には臨時と長期との両契約者があり、後者は更に1年ないし2年間勤務の者と永久勤務の者がある)

当課における1955年7月～1956年6月の期間内における作業題目は次の通りである。

a. 定期的のもの

① ECAFE 地域の 鉱業 発展 評論

筆者の従事したのはこの作業で、1954年7月～1955年6月及び戦後10年間のものについての評論の原稿作成に当つた。

内容は域内の各国政府から提出をうけた最新資料を主とし、これに他のソースからの資料を加えて検討の上評論を編集する。新鉱床の発見、新鉱山の開発、選鉱施設の新設・拡張、電力開発を含む鉱業生産の経済的様相、地質調査状況等が取扱われる。なお、鉱産統計編集の組織と方法をも取扱うことになつているから、この報告書は活用すれば利用範囲も広く、相当の価値を生ずるものと思われる。日本では丸善から市販されていて、1953年7月～1954年6月分は250円程度でえられる。

ワットブラケオ寺院の遠望 (バンコック)



② 特殊 鉱物 資源 と 鉱物 の 発見、抽出 方法 に関する 技術 的研究 と 情報 の 公布

ECAFE 地域の産業発展の基礎となる資源あるいは世界市場で不足している資源の研究で、既に石炭、鉄鉱、アルミニウム、硫黄及びカオリンについて実施し、また1956年完了の予定でイルメナイト資源とこれに関連してチタニウム製造の新しい研究がすすめられている。

b. 不定期であるが優先的の事業として

- ① 域内の褐炭その他低品位炭の調査・開発・利用
- ② 地域内の燃料経済の総合的研究
- ③ 地域内の鉱物開発に関する現存諸法規の編集
- ④ ECAFE 地域地質図の作成
- ⑤ 地域全般用の石炭分類の確立
- ⑥ 地域内諸国の探鉱・地質家のソ連、その他欧州各国への見学旅行の実施 — これは昨夏行われ日本からは地質調査所長を含む3氏が参加した。

c. その他の計画

- ① ECAFE 地域 鉱物 資源 分布 図 の 編集 と 出版 (2カ年の予定)
- ② 地域内アルミニウム工業の拡大に関する特設作業班。(準備期間1年間)
- ③ 低品位炭に関する共同研究とパイロット計画 (2カ年の予定)

以上が ECAFE の 鉱物 資源 開発 に関する 作業 題目 である。

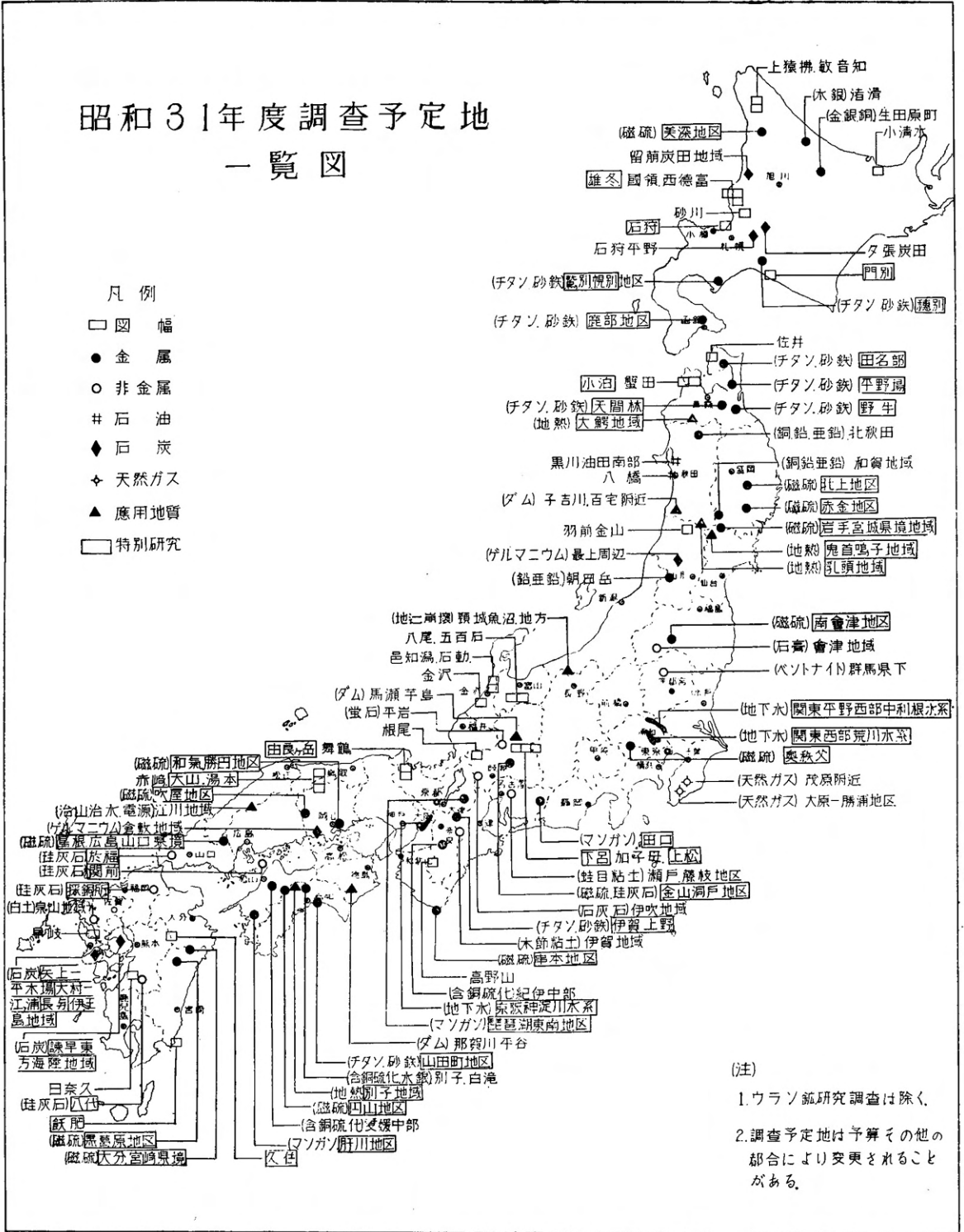
最近 ECAFE 事務局は、従来のように報告書作成のみに終始することにあきたらず、事務局自体で技術者を地域内各国へ派遣し、技術的援助の手をさしのべようとしている。(続) (地質部 沢田技官)

ク ロ ー ン (バンコック)



昭和31年度調査予定地 一覽図

- 凡例
- 幅
 - 金属
 - 非金属
 - ≡ 石油
 - ◆ 石炭
 - ✦ 天然ガス
 - ▲ 応用地質
 - 特別研究



(注)

1. ウラン鉱研究調査は除く。
2. 調査予定地は予算その他の都合により変更されることがある。